

新連載第1回

# 藤田俊哉 日本人初・オランダコーチ奮闘記

## 海外で指導者になるということ

ジュビロ磐田の黄金期を牽引した孤高のMFは、現在オランダの地で「第2のサッカー人生」をスタートさせている。欧州のクラブでサッカー指導者として腕腕をふるうハイオニアとなるために――。選手時代とはまたちがう苦難にあえて挑む藤田俊哉氏の奮闘ぶりをお届けする。

構成◎伊藤亮 Ryo Ito  
写真◎渡辺航哉 Koji Watanabe 本人提供

### オランダでコーチ登録

こうやってサッカー誌に登場するのは久しぶりです。みなさん、こんにちは。藤田俊哉です。僕は今、オランダのフェロクを拠点としてコーチ修行をしています。このたび10月1日に、晴れてVVVフェロクの子として登録されることになりました。本田圭佑、吉田麻也、カレン・ロバートがかつて所属し、現在は大津祐樹がプレーしている日本のサッカーファンにとってもなじみ深いこのクラブで、指導者として本格始動していきます。

今年の1月に住居を決め、家族といっしょに暮らしています。とてもどかどかいところですし、家族も賛同してくれたからこそ現在があるのですが、そのぶん責任を強く感じます。正直、たまにやるべきことがあります。焦ってしまふんです。日本を離れた

環境では、自分をコントロールする必要性にしばしば迫られます。それは選手も指導者も同じ。日本を飛び出して海外で活躍する選手たちは、こういった日常からたちはだかる壁によって鍛えられているんだなと改めて実感する毎日です。

### 海外で指導者になるということ

なぜ日本でなくオランダで指導者としての歩みをはじめたのか、疑問に感じられる方も多いかもしれません。これは僕自身、自問自答して出した答えでした。現役時代、ユトレヒトでプレーしましたが(2003年)、決してメジャー通りにはいきませんでした。それを引退後、あらためて振り返ったんです。そしてオランダの地で、当時と違ったプレーを、今度はイメージ通りに、指導者という立場から現実にした

———と思いました。かつてジュビロ磐田でハンス・オフト監督に学び、ユトレヒトでプレーし、そしてフェロクで指導者としてのキャリアを始める。ついでオランダに縁があるなど感じます。と、いつつ、一方でそこにはオランダがなかったというのも本当のことです。

日本人指導者はなかなか海外で活動することはできない。これが現実です。ACで優勝しよう、代表監督になろうと、その後海外へ飛翔していくのは非常に難しい。岡田武史元日本代表監督が中国のクラブで監督になったぐらいでしょう。僕の場合はVVVフェロクのハイベルデン会長との関係がありました。ロアッソ熊本時代に3度ほどお会いしていましたし、2013年5月23日に行われた引退試合にも来ていただきました。少ないチャンスは自らたぐり寄せるしかない。僕はハイベルデン会長とのコネクションに、自分の将来の



ビジョンを託すことにしたのです。

### 海外という環境で己を追い込む

それからは壁の連続です。ピザの問題をクリアしライセンスを取得し、クラブを訪問してありのままの素性を伝え、取締役会の合同ミーティングの審議を通じてコーチ登録。キルディビジで日本人コーチが登録されるのは初らしいですが、一番はこれから。今も日々壁にぶつかってま

よく言われることですが、海外ではまず自分から発言する習慣をつけなければなりません。でも自分は積極的に発言をしていく環境下では育っていない。そのギャップが現実問題として突きつけられ、考えさせられます。VVVフェロクでは、監督とコーチが2人いて、その下が僕の立ち位置です。練習日は、午前11時のトレーニング開始に合わせ朝8時ぐらいには現場へ行き指導陣でミーティングを行うのですが、ディスプレイが中心になります。そして練習が終わって昼食後もまたディスプレイオン。まずはこの習慣に慣れることが課題です。なにより今後はチームに帯同して、サッカーで試合を分析することなどが役割になりそうです。

今後どのような指導者になりたいか。理想的なサッカーはなにか。そんな殊勝なことを考えられるような立場ではない

段階でもない、今は思っています。それ以前に考えなくてはいけないこと、やるべきことが山積みになっているので。見るのも教えるのも、語るようになるのも、すべてはこれからです。

結局、自分が気持ちを強く持つて進んで行くしかないんですね。悩んで解決できるならする。相談して解決できるならする。でもそれらで解決できないなら、もう自分の中で覚悟を決めて進むしかないでしょう。先のW杯で日本は敗れましたが、目指していることが本気なら変える必要はないと思います。なにもかもが成功するわけではない、勝てないから諦めるというものでもない。怖いのは幻想を抱いて奮闘に終始してしまうことです。そうならないためには、ちゃんと足元を見つめて分析して、進んで行くこと。……どうやら、今の僕も、日本代表も、やるべきことは同じようですね。

### ふじた・としや

1971年10月4日生まれ。静岡県出身。清水高。筑波大を経て1994年ジュビロ磐田へ入団。リーグでベストイレブン3度、2001年にはリーグMVPを獲得。ジュビロ全盛期の中心選手。日本代表国際Aマッチ24キャップ。2003年にユトレヒトへ移籍。翌年ジュビロへ復帰後、名古屋グランパス→ロアッソ熊本→ジェフユナイテッド市原・千葉を経て2012年に引退。2013年にS級コーチライセンスを取得。

元サッカー日本代表でもあり藤田俊哉の近況をご報告させていただきます。藤田俊哉は現在、オランダ、リンブルグ州の都市フェロクを本拠地とするサッカークラブVVV Venlo (VVV フェンロー) でコーチとして所属しており、日本のみならず世界で活躍しております。藤田俊哉は現在、オランダ、リンブルグ州の都市フェロクを本拠地とするサッカークラブVVV Venlo (VVV フェンロー) でコーチとして所属しており、我々、神城文化の森 藤田株式会社 社員一同も藤田俊哉と共に日本木の文化とスポーツ文化の振興を世界に発信していきたいと考えています！